

私のほっとな時間

きらっとLIKE WORK KAWACHINAGANO CITY

河内長野で輝いている人に聞きました

VOLUME
13

NPO 法人フルル花と福祉の地域応援ネット

岡本 彰子 さん



人とまちの彩りを守って

花でつながる



市役所モックル・フルル広場の花壇には季節の花々が咲き誇り、来庁者を出迎えています。メンバーとともに毎週欠かさず手入れしているのは、フルル花と福祉の地域応援ネット市役所グループリーダーの岡本さん。同グループは花の文化園の管理運営サポートに加え、くろまろの郷などの緑化や花の手入れなどを行っています。

モックル・フルル広場では、花を植えるだけではなく古い苗を抜き土を耕し、肥料を入れて植物が育ちやすい環境を整える「土づくり」から始まります。特に力を入れているのが土壌改良。メンバーのつながりから、天王寺動物園の「サバンナ堆肥（草食動物のフンと落ち葉などを発酵させた堆肥）」を活用し、できるだけ自然由来の土づくりを実践しています。「植物は、結局

は土と水。そこが整えば育ちやすいです。数年かけて改良した土はふっくらし、花付きや葉の色つやにも違いが出てきました」と笑顔で語ります。

一方で、猛暑による水不足、台風や長雨などの気候変動による影響は少なくありません。それでも、「一人や二人ではできない。みんなで支えている活動なんです」と岡本さん。強い植物を選定したり、自宅で育てた苗を持ち寄るなど、工夫しながら花壇を守ります。

活動の励みは、通りがかった人からの「いつもきれいですね」「楽しみにしています」の声。市役所を訪れる人の目に、少しでも季節の移ろいや花の魅力が届けば—そんな思いで、今日も花壇に向き合っています。花でつながる地域の彩りは、多くの人の支えと想いによって育まれています。



16人体制で行っている市役所モックル・フルル広場の手入れ。毎週の手入れに加え、年2回の大規模植え替えを行っています。岡本さんは「車で来ると通らない人が多いと思います。季節に合った花を植えていますので、市役所に来た時は、少し足を延ばして見て欲しいです」と話します。